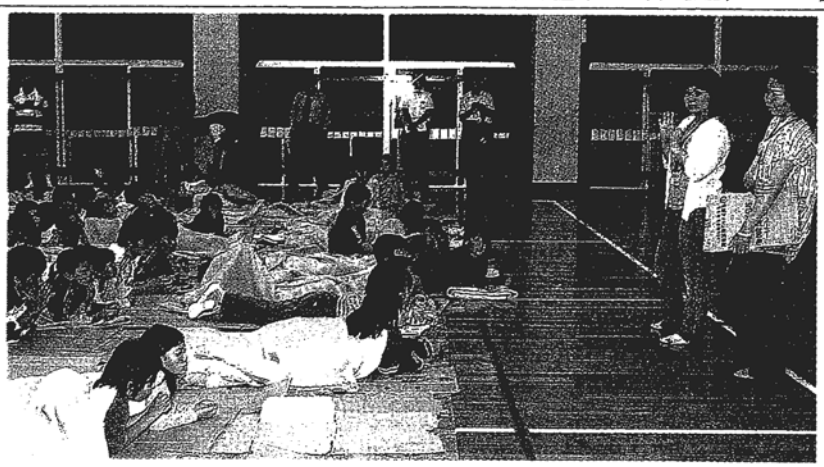
2006年(平成18年)6月21日(水曜日)



段ボールに寝そべり、学生の被災体験を聞く児童ら（姫路市立藤ノ木山野外活動センターで）

神院大生が防災授業

姫路で児童に震災体験語る

小学生の時に阪神大震災を経験した神戸学院大学（神戸市西区）の学生らが20日、姫路市立藤ノ木山野外活動センターで、同市立旭陽小5年生約100人に避難所体験などの「防災授業」を行った。児童たちは体育館に段ボールを敷いて横になり、固い床の上で寝るつらさを実感し、学生の体験談に耳を傾けた。

同小が泊まりがけで行う自然学習の一環。同小の呼びかけに、防災やボランティアについて学ぶ同大学の「学際教育機構防災・社会貢献ユニット」に所属する2年生7人が協力し、授業内容も考えた。

児童たちは昼間、応急手当の方法やロープの結び方などを学び、夕食後、体育館で避難所の雰囲気を体験。神戸市兵庫区で被災し、1週間、近くの小学校の教室で過ごした山本真巨（まみ）さん(19)は「早朝だったのでパジャマ姿で避難した。水が出ないのでトイレにも困った」などと語りかけた。児童たちは、非常持ち出し袋に何を入れておけば良いかなどを懸命に考えていた。

2006.6.21　読売

2006.12.13　神戸

新教材で防災学習

神戸学院大生が開発指導

姫路・旭陽小

アイマスクを付けた同級生を誘導＝旭陽小学校

「防災」をテーマにした理科や社会などの教科学習が、姫路市立旭陽小学校（網干区坂上）であった。神戸学院大の「防災・社会貢献ユニット」に所属する学生が開発した教材で指導した。

防災教育を授業に日常的に取り入れてと、同ユニットの学生約二十人が中心に教材を作った。

国語、社会、理科、体育の四教科。理科はすごろく形式で、理科の知識とともに、備えておくべき非常食の量など防災の基礎について質問した。

体育では災害時の視覚障害者の誘導を体験。児童は机やいす、丸めた新聞紙を散乱させ、ひもを張り渡した教室内で、アイマスクを付けた同級生を安全に誘導する練習をした。

六年の仲前智美さん(一二)は「地震のとき、目の見えない人の不安さが分かった」と話した。希望する小学校には教材を送る。指導する学生の派遣も可。舩木さん☎078・974・1551

（神谷千晶）